

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	3470205240		
法人名	株式会社 エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム五日市・みどりの家		
所在地 (電話番号)	広島市佐伯区五日市中央3丁目16-15 (電話) 082-922-7454		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成20年9月28日	評価確定日	平成20年10月5日

【情報提供票より】(21年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	10.2 人

(2) 建物概要

建物形態	単独/併設	新築/改造
建物構造	RC 造り 3 階建ての 2 階及び 3 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷金	(有) (150,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	昼食に含む 円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	71 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あおぞら診療所、小川歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人グループ内の再編で平成20年開設となったが、実際は平成16年10月1日に開設され、5年の経験と実績をもつグループホームである。市内には同じ法人の介護施設が多数開設されており、規模メリットを活かし経験を共有しつつ、個々の事業所の特徴も活かした運営を行っている。利用者は「ゆっくり・いっしょに・たのしく」の運営理念のもとに、ゆったりとした中で利用者一人ひとりのペースを大切にして、その人らしく生活できるように支援されている。近くには松並木に囲まれた遊歩道があり、日常的に散歩したり、買い物したり、思い思いの外出が出来ている。町内会にも参加し、地域に溶け込んだ運営が実施されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前は 運営推進会議を活かした取り組み、市町村との連携、栄養摂取や水分確保の支援の3点に改善課題があった。市町村との連携は進展があまりなかったが、運営推進会議は内容に発展があり、栄養摂取と水分確保は必要な利用者について記録を取るよう改善が実施された。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 評価の意義はよく理解されている。今回の自己評価も多くの職員の意見や反省が盛り込まれて作成された。また時間の許される範囲でそれらの情報を職員で共有し、改善の努力もなされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は年におよそ4回、町内会長・民生委員・地域包括センター・家族代表・本社職員・事業所職員・利用者のメンバーで行っている。また、他の事業所職員や消防士(家族)といった参加メンバーの拡大により、意見・情報交換の質や範囲が向上しているようである。運営推進会議を通して地域包括支援センターとの協力関係がある。身寄りのない利用者、後見人などの相談で区役所の協力を得ている。交流の機会を積極的に作って、サービスの向上により役立つ情報交換や協力関係を作っていくことが期待される。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時に生活状況を詳しく報告している。また毎月手書きの手紙を送っている。3か月に1度の頻度で 暮らしぶりの情報満載紙「みどりの家新聞」を発行して、報告と同時に楽しみの一つとなっている。苦情等の連絡先は 事業所・第三者機関・ご意見箱を明記して周知している。また、家族との面会時には直接意見をいただいている。苦情等があれば、職員から管理者へ、さらに本社にも報告し、対応を行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に参加し、地域交流は良好である。利用者職員と一緒に町内清掃や町内運動会・安全パトロール・盆踊りに積極的に参加し、また、お誘いも受ける関係にある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「 ゆっくり ・ いっしょに ・ たのしく 」 を事業所の理念として、職員全員が意識して職務に当たっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	室内の目立つ所に掲示し、日頃のミーティングでも話し合いをしている。事業所独自に発行している新聞にも大きく理念を掲載し、関係者全員に浸透するような取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加し、地域交流は良好である。利用者と職員は一緒に町内清掃や町内運動会・安全パトロール・盆踊りに積極的に参加し、また、お誘いも受ける関係にある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義はよく理解されている。今回の自己評価も多くの職員の意見や反省が盛り込まれて作成された。また時間の許される範囲でそれらの情報を職員で共有し、改善の努力もなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年におよそ4回、町内会長・民生委員・地域包括センター・家族代表・本社職員・事業所職員・利用者のメンバーで行っている。また、他の事業所職員や消防士(家族)といった参加メンバーの拡大により、意見・情報交換の質や範囲が向上している。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通して地域包括支援センターとの協力関係がある。身寄りのない利用者、後見人などの相談で区役所の協力を得ている。	○	報告や問い合わせなど交流の機会を増やしなが、サービスの向上により役立つ情報交換や協力関係をつくってゆく取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に生活状況を詳しく報告している。また毎月手書きの手紙を送っている。3カ月に1度の頻度で暮らしぶりの情報満載紙「みどりの家新聞」を発行して、報告と同時に楽しみの一つとなっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の連絡先は 事業所・第三者機関・ご意見箱を明記して周知している。また、家族との面会時には直接意見をいただいている。苦情等があれば、職員から管理者へ、さらに本社にも報告し、対応を行っている。苦情等の情報は 管理者会議等で法人内で共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員全員が利用者と馴染みの関係となれるように努力している。それによって 職員の異動時の利用者へのダメージを最小限になるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に5日間のスケジュールで新人研修を実施してから職務につかせている。その後は社内外の研修機会を設けており、職員の希望や上司の勧めにより受講をしている。月に2回は施設合同の研修会を内外の講師を招いて開いており、研修に参加しやすい環境づくりを工夫している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを見学し合うなどの交流を持っている。また法人内5つの事業所管理者が集まって毎月管理者会議を開いている。これらの機会に情報交換や交流を行い、サービス向上を目指す取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの開始に当たっては最初に訪問や面談で接し、次に見学に来ていただいてお話をしたり様子を見ていただいて、さらに体験入居をしていただくといった段階取りで進めている。徐々に環境や関係者に馴染むよう家族と相談しながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に人生の先輩として接し、可能であれば一緒に買い物・散歩・料理・掃除・洗濯などを手伝ってもらっている。ある時は教えていただくこともあり、利用者と職員は一緒に支え合って生活をする関係となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で利用者の希望や意向を把握するように努めている。また、会話などで気付いたことはメモをしておいて、意向の把握や本人本位に検討する際の参考としている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に利用者の意向や希望・家族の意見をよく聞きながら介護を始めるが、実際の介護をある程度の期間行った後、それまでわかった事実情報から介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に確認と署名をいただくようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	9月と3月に介護計画の見直しを行い、日報や主治医・職員・家族の意向を反映して作成し、家族に確認と署名をいただいている。状態の変化や家族の要望があれば、その都度家族の確認を得て介護の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩・買い物などの利用者の要望に応じて 送迎や付き添いなどの支援を臨機応変に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族のかかりつけ医の継続も支援しているが同意が得られれば事業所の協力医院や在宅専門の医師による24時間対応が可能な体制を利用していたい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方針の共有が必要な時期を見定めて、家族・医師・管理者が一同に話し合う場を設けて相談し、方針を決定・共有するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に近づくためにも 職員は常に利用者の尊厳やプライバシーを傷つけないように対応に気を配り、利用者に気付かれないように注意もしている。個人情報の守秘については重要度に応じて仕分けして保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の基本的な1日の流れはあるが、利用者がゆっくり一緒に楽しく過ごせることを第一に利用者本位を心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる利用者は一緒に食事作りをしたり、片づけをしたり、協力し合って食事を楽しんでいる。当日、献立を考えたり、買い出しに行くこともあって、家庭での食生活に近い楽しみ方ができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望があれば、それに合わせて入浴できるように支援している。入浴を好まない利用者に対しては 声かけのタイミングを工夫するなどして支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯、掃除、料理、配膳、片づけ、お茶出しなど、各所に力を発揮する出番があり、職員と協力しあっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や職員の発案で、散歩・買い物・ドライブなど臨機応変に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに理解はあるが安全を優先して、各階で施錠している。利用者の要望があればいつでも一緒に出かけるようにしている。	○	鍵をかけないケアに 可能な所から徐々に工夫して取り組まれることを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内会に参加して、その防災連絡網に入っており、地域の支援も期待できる。また、消防署の協力を得て避難訓練を年2回実施している。職員の防災教育(講習会参加)も随時行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランスや水分摂取は職員の判断で管理・調整している。厳密な管理が必要な利用者については 日誌を改良して数字を記入するようにした。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やリビングの壁には利用者や職員が作った季節感のある作品や写真などが飾られ、自分たちの居住空間を演出している。畳スペースやこたつも だんらん に活用して、居心地よく・楽しく・ゆったりと共同生活ができる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使い慣れた家具・電気製品等を持ち込み、その人らしい居心地の良い部屋にさせていただきよう勤めている。安全確保や利用者の事情によって居室は様々であるが 概ね普通の家庭の部屋のように居心地良く過ごせるように工夫している。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「ゆっくり・いっしょに・たのしく」をホームの理念として設定している。地域の催しにも積極的に参加して関係を深めるよう努力している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	各ユニットに掲示すると共に、職員全体の共有化を図るため、日常のミーティングで繰り返し話をして、より理念の徹底に努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	3ヶ月に1度発行している通信に、毎回理念を掲載し、理解していただくようにしている。		
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	回覧板を回したり、朝・夕の花の水やり等で、近隣の方との交流を行っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に参加し、利用者と共に町内清掃、町内運動会、安全パトロールに積極意的に参加し、地域との交流を深めるようにしている。 ボランティア募集のパンフレットを作り、家族や地域との関わりを深められるよう努力している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議で地域の地域包括センターと情報交換をしており、地域より必要とされている事を模索している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義はよく理解されている。 指摘された課題についても全職員で取り組み、よく話し合っ、改善に向けて努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1度、町内会長・民生委員・地域包括センター・家族代表・職員のメンバーで行われ、その意見を参考にしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議を通して、地域包括支援センターとの連携を深め、サービスの向上を心がけている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	機会がある時には、研修などに参加し、学んできたことを職員全体で共有している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加し、学んできたことを全員ミーティングで発表し、職員全員で学び、虐待を防げるよう、努めている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時やケアプランの作成時、ご家族や入居者様にしっかり説明し、理解・納得していただいた上で捺印をしていただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日頃よりコミュニケーションを密に取り、意見を聞くようにしている。また、「利用者からの苦情を処理するために講ずる措置の概要」をユニット内に掲示し、玄関に目安箱を設置している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族の面会時に、利用者の生活状況を詳しく報告するようにしている。また、3ヶ月に1度、「みどりの家通信」を発刊し、送付すると共に、書面で毎月、利用者の近況を報告するようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や家族の面会時に意見を聞きだし、運営に反映させるようにしている。 ご意見箱も設置されている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々のミーティングや月に1度の全員ミーティングにて、意見を聞くようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	人手が不足することがわかっている時には、勤務交代をするなど、状況に合わせて臨機応変に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者に対する担当は決めず、職員全員で対応し、全員が顔なじみの関係になれるよう努力している。これにより、移動などの影響が小さくなるように配慮されている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入社時には新人研修を行い、その他の職員も年間を通しての研修計画が作られている。2週間に1度、同事業所合同の勉強会に参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他のグループホームを見学したり、勉強会や交流会に積極的に参加して職員同士の意見交換を行い、サービスの質の向上につながるよう努力している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は職員の不安や悩みを聞きながら、相談に乗り込んでいる。また、親睦会などを行い、ストレスの軽減に努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	定期的に研修への参加を促し、他職員の模範となるような行為は紹介したりと、向上心の工場に努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	見学に来られた時や、体験入居の時に、積極的に意見を聞くようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学に来られた時や、電話での相談等、しっかりとお話を聞かせていただき、不安などを聞くようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の訴えをよく聞きとり、必要な支援は何かを話し合いながら、対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験入居をして頂き、家族や利用者の希望をよく聞き、ゆっくりと馴染めるように家族と相談しながら支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に人生の先輩として接し、一緒に買い物や散歩・料理・掃除など、出来ることは手伝っていただき、より親しみのある関係作りに努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の様子は細かく報告し、ご家族様と一緒に考えるようにしている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人様・ご家族様の双方の意見を聞き、偏った視点にならないよう気をつけ、双方のよりよい関係が築けるよう、支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	可能な時には外出時に馴染みのある場所へ行くことが出来るよう、努めている。 友人の面会等、積極的に受け入れている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者間のトラブルが起きないように、状態をみて席替えを行うなど、常に気を配るようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用終了後も必要とされている利用者やご家族には交流を持つよう、努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月の生活の中で、利用者の希望や意向を把握するように努めている。また、家族の方からもその人の生活歴等の情報を得るようにして、日常の支援に活かされている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者様一人一人に「情報用紙」を作り、新しく知ったことを職員全員が書き足していき、利用者様の情報を共有している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の様子は一人一人、細かく生活日誌に記録し、職員全員が入居者の様子を把握出来るようになっている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者の意向や希望・家族の意見をよく聞き、職員ミーティングの参考にして、その人らしく暮らせるように介護計画が作られている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っているが、状態の変化や、ご家族の要望があれば、その都度介護計画の見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々、一日の様子やバイタル値、食事摂取量や排泄等、生活日誌に個別に記録し、保存している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている。	利用者の要望や、状況に 応じて、散歩・買い物・送 迎などに臨機応変に対応 している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に 応じて、民生委員やボラ ンティア、警察、消防、 文化・教育機関等と協 力しながら支援してい る。	本人が希望され、必要 なときには、民生委員 やボランティア等と協 力しながら支援を行っ ている。		
41	○他のサービスの活用 支援 本人の意向や必要性に 応じて、地域の他のケ アマネージャーやサー ビス事業者と話し合 い、他のサービスを利用 するための支援をして いる。	他のグループホーム等 との交流を行い、他の サービスの利用の支 援の方法を模索してい る。		
42	○地域包括支援セン ターとの協働 本人の意向や必要性に 応じて、権利擁護や総 合的かつ長期的なケ アマネジメント等につ いて、地域包括支援 センターと協働して いる。	運営推進会議などで 地域包括支援セン ターとの連携を強 め、協働していく 方法を模索してい る。		
43	○かかりつけ医の受 診支援 本人及び家族等の希 望を大切にし、納得 が得られたかかりつ け医と事業所の関係 を築きながら、適切 な医療を受けられ るよう支援してい る。	利用者・ご家族の同 意の上で、ホームの 協力医院や在宅専 門の医師により、2 4時間対応して利 用者の健康管理が 行われている。		
44	○認知症の専門医 等の受診支援 専門医等認知症に 詳しい医師と関係 を築きながら、職 員が相談したり、 利用者が認知症に 関する診断や治療 を受けられるよう 支援している。	在宅専門の医師の 往診時に細かく 相談・助言を仰 ぎ、利用者を支 援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員も情報を共有し、利用者一人一人の状態を把握し、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した際には、定期的に病院関係者やご家族に連絡し、情報交換等を行うよう努力している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	担当医との連絡を密にし、家族の方と相談し、その意向を入れて方針を立て、職員全員ミーティングで意思統一を行うなどして、終末ケアを行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者の状況を見ながら、かかりつけ医、家族、職員の間での話し合いの機会を作り、協力体制を強化している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	ホームを退去され、他へ移る際には、情報提供をしっかりと行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	職員は常に利用者の尊厳やプライバシーを傷つけないように対応に気を配っている。個人情報の守秘については、契約時に明記し、家族との覚書を取り交わしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	決して職員の思いを押し付けることはせず、どんな小さな事も自己決定していただくような声かけに努めている。迷った時には決定しやすいよう訊ねながら決定できる方向へ導く。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ホームの基本的な1日の流れはあるが、利用者各人のペースに合わせて、ホームや職員の都合に合わせて、ゆったりと過ごせるように、心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	近所の理容室へ予約を取り、いっただいたり、出かけることが難しい方には、訪問理容などを利用することで、身だしなみには関心をもっていただいている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方には食事の準備、味付け、配膳、後片付け等一緒に手伝っていただき、食事中は職員が見守りやサポートをさりげなく行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	自己管理できる方には居室内に冷蔵庫をおき、好きなものを保存し、いつでも楽しんでいただいている。冷蔵庫をお持ちで無い方は、ホームで管理し、いつでもお出ししている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間的に声かけしていきながら、一人一人のリズムを把握するよう努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	1日おきの入浴になっているが、利用者の希望があれば、それに合わせて入浴できるように、支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	あくまでも家庭の中での生活という視点を大切にしているので、時間的な決め事はなく、好きなきに、いつでも・どこでも、休息していただけるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の気持ちを尊重し、各人の得意なこと、出来ることに能力を発揮できるように、日々の調理の手伝い、花の水やり等に各利用者の出番があるように、心がけて支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理能力のある利用者の方には大金過ぎない程度のお金は所持していただき、日々のおやつ代や電話代等、自由に使って頂いている。希望があれば、買い物などにも、即対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望場所や職員のおすすめスポット等、買物・ドライブなど、日常の散歩なども含め、盛んに行われている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	普段の会話の中から、行きたいところ等を聞いておいて、少人数あるいは個別で出かけられる小規模外出の機会を多く持っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホームの電話をいつでも使用して頂き、かけることが難しい方には職員が対応し、ご家族やご友人とやりとりしていただいている。 時には代筆をつとめる事もあるが、近くにポストがある為、投函などは一緒に行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ホームとしては24時間いつでも受け入れ可能としており、訪問された際は、笑顔でお迎えし、お茶などの接待をしている。 居室内ではご家族でゆっくり過ごしていただけるよう、不必要な長居は避ける。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全を確保する上での見守りや声かけ、また、夜間巡視を徹底する事で身体拘束をしないケアについては理解し、取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	デイサービス(1F)併設のため、日中の安全上、オートロックにしているが、利用者の要望があれば、いつでも一緒に出かけるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常にフロアに気を配り、各人の居場所を確認している。フロア内には自由にいただいているが、目配りを忘れず、変化を見落とさないよう努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	明らかに危険な物についてはスタッフルーム等にて保管・管理している。 個人個人の状態に応じて環境を整えるよう、努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	「ひやりはっと」等の事例報告等を活用し、事故防止のための対策を皆で話し合い、実行に移すよう取り組んでいる。 年2回の防災訓練を通して技術・知識を向上させる努力をしている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	毎年、救命救急講習を受けることで、いざというときに困らぬよう、技術を向上させるよう取り組んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	自治会に参加し、防災の連絡網に加わり、いざというときに地域に支援要請が出来る体制となっている。 利用者の避難及び防災訓練も年に2回行われている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	薬の変更に伴うリスク、転倒のリスク等、ご家族の希望に対するリスクに関しては説明の場を持ち、予め了承を得ている。 また、そのことについても、文章で残している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	小さな変化も見逃さないよう、普段からの観察に努め、スタッフ間での相談・連絡を密に行い、主治医との連携も怠らないよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイル内の服薬管理に目を通して、処方されている薬の理解に努め、症状に応じて支援できるよう、看護師や主治医との連絡を密に行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェック表を活用し、排便の確認の取れない方には、乳製品や繊維質の多い献立等を工夫して提供する努力をしている。 軽い運動や散歩も取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ご自分で出来る方には、ご自分で歯磨きをしていただき、夜間は義歯の洗浄を毎日行っている。 自力で難しい方には、歯磨き・歯茎のマッサージ等を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事の量をチェックし、食事の観察を行っている。 水分も積極的に摂っていただけるよう努めている。 状況によっては水分摂取量を記録し、必要に応じた支援を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者・スタッフ共に予防接種（インフルエンザ）を受けたり、肝炎の検査も実施している。 感染症にかかってしまった場合は隔離するなど、ご家族にも協力を得て対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	定期的に調理用具や食器の消毒を行い、衛生管理に努めている。 食材の賞味期限にも注意を払い、概ね加熱調理している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花や緑で飾り、和みやすい雰囲気作り。 デイサービスとの共有空間でもあり、季節感のある壁面構成がされている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	緑や花など、季節感の感じられるものを身近に置いたり、クラシック音楽を流して、ゆったりとした空間づくりをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話室に畳を配置したり、ソファを置き、何人かで過ごせる居場所を作っている。冬にはコタツ等も置き、のんびり横にもなっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者がこれまで使い慣れた家具、電気製品などを持ち込み、その人らしい居心地の良い部屋になっている。空調も適度で、清潔にされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	窓を開け、風通しを良くすることで、換気や温度調節を行っている。 状況によっては、室内の空調で温度調節を行うこともある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内は概ねバリアフリーで段差もなく、歩きやすい空間である。所々段差もあり、それは生活リハビリの環境として利用している。その際、見守りを行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	物を置く場所を一定し、迷うことのないよう習慣にしていこう支援している。 迷う方には、場所を指し示す表示をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花や緑を植え、利用者が水やりをしたり、草抜きをしたりしている。 落ち葉の掃除等で季節感を感じることも出来る。		

V サービスの成果に関する項目 2F

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② ●利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① ●毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ●ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ●ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② ●利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ●ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ●ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族と ② ●家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ ●たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② ●少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ② ●職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② ●利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② ●家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域のお祭りや町内会清掃に積極的に参加している。入居者の方にも一緒に参加してもらい、地域に馴染んで頂けるように心がけている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	月一回全体ミーティングを行い、議事録を作成。それをいつでも見れるようにしており、理念の共有を図っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームの行事等に、地域の方を招待したり、家族会を開いたりして、皆さんに理念を伝えている。		
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方達に、自分たちのほうから積極的にあいさつをし、コミュニケーションを図っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内清掃や、敬老会等、地域の行事には進んで入居者の方と一緒に参加している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内清掃には入居者の方と参加している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善できる場所は全体ミーティング等で話し合い、全力で取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議で出た意見を参考に、取り入れられることは取り入れている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	質の向上に向け、努力はしているが、行き来する機会は少ない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	必要な時には支援をする。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加して、ミーティング時に発表したり、研修報告書を回覧し、事業所全体で問題解決に努めている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の前に、ホームに見学に来ていただき、疑問点などに対して説明し、ご家族と本人に納得していただけるように努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	入居者の方とのコミュニケーションを十分に図るようにし、訴えがあれば管理者に報告・連絡・相談し、改善に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月に1度、1ヶ月の入居者の方の様子をお手紙にして渡したり、3ヶ月に1度新聞を発行している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会に来られた際に、伺ったり、家族会を行い、その時に意見の交換をしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度、全体ミーティングを行い、この時に意見・提案を聞く機会を作っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な時にはスタッフが、ボランティアで参加し、調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者の前ではその様な話しはしない様に、努めている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修への参加をすすめ、資格取得の声かけをしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他事業所へ見学へ行った際や、グループホーム同士のネットワークに参加するなどして、意見交換をしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	全体ミーティング時や、日頃の業務の中で、スタッフらの意見を聞き、改善できるよう努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	上期・下期に分けてスタッフ各自が目標を決めて、半年に1度管理者と面談を行う。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	日頃からコミュニケーションを密に取るようにし、不満等あれば改善するようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	何かある時や、ささいな事でも、家族に報告し、改善するように努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人に一番適した支援を考え、対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	契約する前に、希望があればお試し入居を実施している。 ホームの理念等、体験していただく機会を設けている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買物や外出、日々の生活の中での役割を一緒にし、同じ時間を共有することで、感情の共有を図っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ホームの行事に参加していただいたり、家族会や面会時等に意見を交換し、感情の共有を図っている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	口に出したくない家族もいるため、書類等で情報を集め、理解に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	可能な人はご家族の協力もあって、自宅に帰ったり支援している。 色々と問題発生への恐れのある人もいる為、全員・・・という訳にはいかない。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	複数人で外出したり、ホーム内の軽作業やレクリエーション等、一緒にする機会を作っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居された方との関わりは特別ない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自宅におられた時と、出来るだけ変わらないように希望に沿うよう努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の今までの暮らし方、こだわりを大切にしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人一人十分に観察し、小さな変化も見逃さないように気をつけている。 心身の変化のサインにも気をつけている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	それぞれの意見を反映して、介護計画を作っている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況の変化に合わせて介護計画の見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、生活日誌を記入し、情報を共有している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている。	散歩や買物等、希望に沿える よう臨機応変に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、 民生委員やボランティア、警 察、消防、文化・教育機関等 と協力しながら支援している。	地域の資源を有効に活用させ てもらい、地域の一員としての 役目も果たしつつある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、 地域の他のケアマネージャー やサービス事業者と話し合い、 他のサービスを利用するための 支援をしている。	他のサービスを利用する予定 は今のところはない。		
42	○地域包括支援センターとの 協働 本人の意向や必要性に応じて、 権利擁護や総合的かつ長期的 なケアマネジメント等について、 地域包括支援センターと協働 している。	運営推進会議には参加を願 いしているが、協働はしてい ない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大 切にし、納得が得られたかか りつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受け られるよう支援している。	在宅専門の医師が24時間 対応してくださり、場合によ っては入院の手続きもしてく ださる。		
44	○認知症の専門医等の受診 支援 専門医等認知症に詳しい医 師と関係を築きながら、職員 が相談したり、利用者が認知 症に関する診断や治療を受け られるよう支援している。	不定期ではあるが、専門医 の講演などで、病気について の理解を深めていく。 特に連携しているわけではない が、専門病院受診時に医師 と相談している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員の看護師や往診時の看護師に相談しながら支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	早期退院に向けて病院側と情報交換に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	主治医・家族・職員とで相談し、方針をたてて全職員と共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医と連携しながら、チームとして取り組む検討をしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	馴染みの物を使ってもらったり、それぞれの情報を交換し、今までと同じ生活が出来るよう、支援している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	礼儀をわきまえた対応を心がけている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自分の意思決定を第一に支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人個人の生活を大切に、出来る限り希望に沿えるよう努力をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	要望に応じ支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	自然な流れで一緒に参加できる雰囲気を作っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	たばこは防火の為、全面禁止にしているが、希望される方はいない。 その他は状態に合わせて支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の状態を把握し、支援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	2日に1回と流れは決めているが、それにとらわれず、希望に応じている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個人に合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	出来たことを一緒に喜び、生き生きと生活していただけるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が難しくても、家族と相談した上で支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望には添うよう努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	普段の会話から行きたいところを一緒に見つけ、少人数で外出する支援をしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の思いを大切にし、支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に来ていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会等で正しく理解するよう、努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	デイサービスを併設しており、安全重視のため、オートロックにしている。 家族には説明できている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	フロアに職員が誰もいないという事がないよう、十分気をつけ、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	事故防止に努めつつ一人一人の生活も大切にしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	研修・勉強会を通し、意識を高く持ち、取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	定期的講習を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	自治会に加入しており、支援要請ができる。 避難・防災訓練を年に2回行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ご家族との連絡を密にし、お話しさせていただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	異変を見つけたら、すぐ看護師・主治医に相談し、早期に対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		○	全職員が把握しているとは言いがたく、課題である。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	薬だけに頼らず、個人に合わせて対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	就寝前の口腔ケアは必ず声かけ、支援しているが、日中は個人の生活習慣に合わせている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人の状態を把握し、種類や摂り方を工夫し、更に注意が必要な場合は摂取量を生活日誌に記入している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	消毒水の利用・予防接種や日頃からの予防に努める。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	こまめに消毒を行う。 配食サービス利用で1週間で使い切る。 冷凍保存をしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	オートロックになっているので自由とは言えないが、歓迎しているという雰囲気でも受け答えしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自然な生活音は感じつつ、音や声のトーンには配慮している。 リラクゼーションミュージックを流している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話室を設けている。 状況に応じてソファの位置等も柔軟に変えている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人・ご家族の希望を一番に考えた上、危険のないよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	心地よい生活の場となるよう、努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	守りすぎるのではなく、本人の力を大切にしつつ、状態に合わせた支援を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱するような言葉は避け、ゆっくりトーンを落とし、解りやすく話すよう努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	植物を育て、入居者さんにも、水やりや掃除などに参加していただいている。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② ●利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① ●毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ●ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② ●利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② ●利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ●ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ●ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族と ② ●家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ ●たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② ●少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ●ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② ●利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② ●家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目